

2023年10月
「自然共生サイト」認定！

「ICU三鷹キャンパスの森」



雑木林

再生プロジェクト

2024～2025年度
実施内容のまとめ



ICUマスコット
はちろう

もくじ

① はじめに

- 2023年10月、ICUのキャンパスが自然共生サイトに登録！
- 2024年4月、「雑木林再生プロジェクト」がスタート！
- 【コラム】雑木林とは…？
- 約10年間かけて雑木林を再生させます！

② 2024年度実施内容

- 概要
- 1) 動植物調査
- 2) サポーターとの学習会と保全活動
- 3) 普及啓発
- 4) 更新伐採

③ 2025年度実施内容

- 概要
- 1) 動植物調査（2024年度からの変化）
- 2) サポーターとの学習会と保全活動
- 3) 普及啓発

④ おわりに

- 雑木林再生プロジェクトのこれまでとこれから



① はじめに

① はじめに

2023年10月、ICUのキャンパスが自然共生サイトに登録！

国際基督教大学（ICU）は、東京都西部（北多摩地域）に、約 62 万㎡、東京ドーム約 13 個分におよぶ広大なキャンパスを有しています。そんなキャンパスの中には、武蔵野の面影を残す雑木林や国分寺崖線の一部があり、市街地化の進んだ三鷹市の中では、とりわけ豊かな自然を有する地域です。

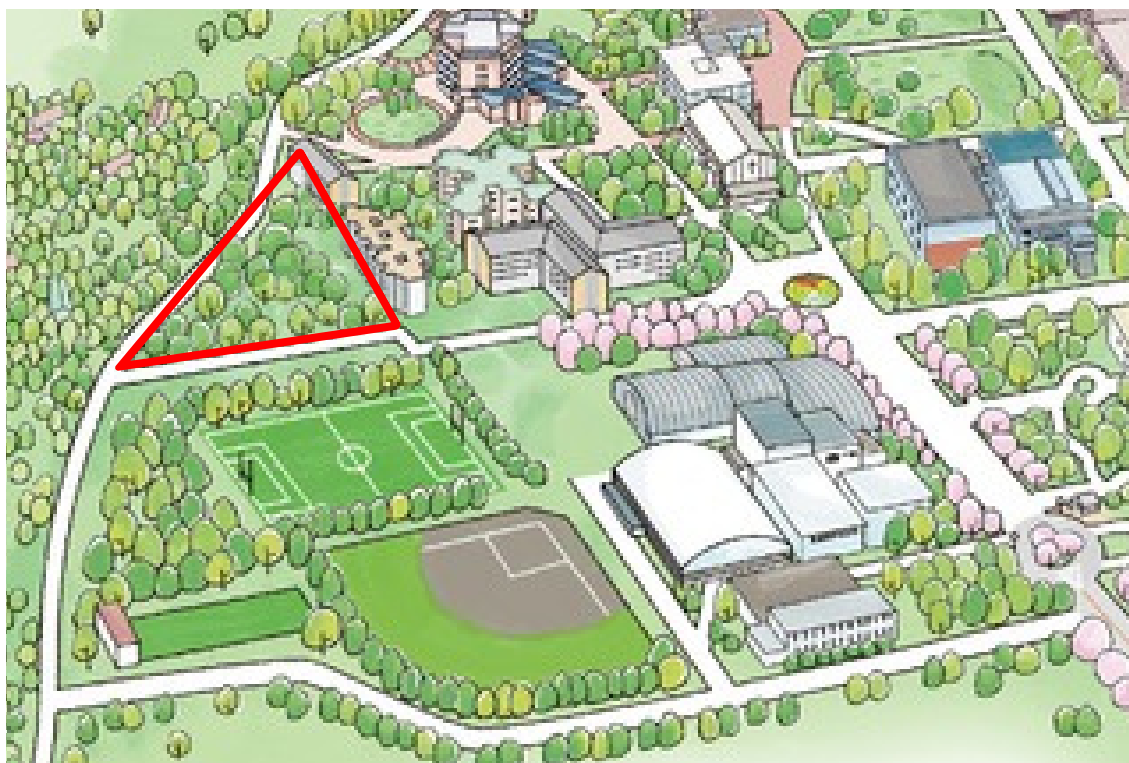
2023年10月、この豊かな自然の価値やポテンシャルが認められ、環境省が主導する「自然共生サイト」に「ICU三鷹キャンパスの森」として登録されました。以降、これまで以上に十全な管理に取り組むことで、地域の生物多様性保全に貢献し、この豊かな自然を、大学および高等学校の教育研究の場として、次の世代に受け継ぐ取組を進めることとなりました。



① はじめに

2024年4月、「雑木林再生プロジェクト」がスタート！

「ICU三鷹キャンパスの森」の中にある雑木林は、適切な保全管理を行うことで、希少種を含む多様な動植物が生息・生育することができます。しかしながら近年、この雑木林が、樹木の老齢化やナラ枯れ病の蔓延などの課題に面していました。こうした課題の解決を行い、「ICU三鷹キャンパスの森」のポテンシャルをさらに引き出すため、かつて武蔵野にあったの若い雑木林を再生し、本来雑木林が持っている生態系の復活を図る「雑木林再生プロジェクト」を、2024年4月～スタートさせました。



《「雑木林再生プロジェクト」企画運営担当：
特定非営利活動法人NPO birth 》

身近なみどりを守るため1997年に設立された環境NPO。公園緑地を主な拠点に、「みどりのまちづくり」を進めている。

(参考：<https://www.npo-birth.org/>)



【コラム】 雑木林とは…？

雑木林は、かつて武蔵野地域に広がり、人の生活と共にあった自然環境です。薪などを得るために木を伐採、田畑の肥料を得るために落葉かきをする、など、継続的に人の手を入れて維持されてきました。

雑木林の木々は、伐採されても芽を吹いて再生します。この特徴を活かし、約20年に1回、伐採を繰り返すことで、継続的な利用が可能になります。木々は放置すると大きくなり暗い森になりますが、雑木林は人が関わることで、明るい森として維持されます。人の手つかずの自然界ではあまり見られない明るい森には、雑木林特有の生きものたちが息づいています。雑木林は、生物多様性が豊かなサステナブルな森なのです。



①はじめに 約10年間かけて雑木林を再生させます！

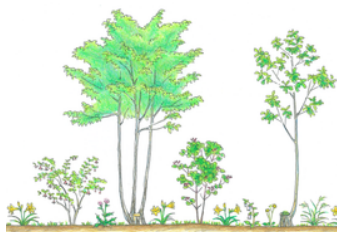
雑木林の再生は、木々の伐採や後継樹の育成などを伴うため、長い年月がかかります。そこで、以下のスケジュール通り、約10年間の時間をかけて雑木林を再生させ、その後も継続的に保全管理が進むしくみの確立を目指します。また、その過程の中で、以下の短期・中期・長期目標の達成を目指します。



短期目標

学内の自然環境再生、
教育研究の場としての活用

「ICU三鷹キャンパスの森」が持つ自然環境のポテンシャルを最大限引き出し、多様な動植物が生息・生育できる若い雑木林を再生させます。学生への授業など、学内の教育研究の場としても大きく活用します。



中期目標

学外への普及啓発

再生された「ICU三鷹キャンパスの森」の自然環境を、学内だけでなく学外の産官学民さまざまな地域の主体に教育研究の場として共有します。



長期目標

学内外協働での継続的な
自然環境保全

「ICU三鷹キャンパスの森」が、地域の貴重な財産として認識されるようになります。学内外の多様な主体が関わり、継続的な保全管理がなされ、自然環境が質の高いまま維持されていきます。



② 2024年度实施内容

② 2024年度実施内容 概要

2024年度は、雑木林再生プロジェクトの1年目にあたり、現況把握のための動植物調査、学内外の関係者（サポーター）との学習会や保全活動、ガイドウォーク等を通じたプロジェクト周知、そして更新伐採などを実施しました。

年間の多様な取組を通じて、「ICU三鷹キャンパスの森」の貴重な自然環境の把握・保全作業・普及啓発、そして、雑木林再生の担い手であるサポーターの育成を進めました。

雑木林再生プロジェクト対象地 2024年3月時点のようす



雑木林再生プロジェクト対象地の目指す姿



② 2024年度実施内容

1) 動植物調査

動植物調査を、春夏秋冬1回ずつ実施。結果、植物は87科259種、動物は109科232種を確認しました。その中で東京都の絶滅危惧種を含む希少種も39種確認できています。特筆すべきは、オケラ、リンドウ、カヤコオロギ、ニホンアカガエルなど、近隣の公園や緑地では姿を消してしまった種が今も見られることです。このことから、調査に同行した東京農工大学植生管理学研究室の吉川正人准教授から「このプロジェクト対象地は、武蔵野地域の雑木林のレファレンスサイトになる（武蔵野地域の雑木林で見られるはずの動植物がほとんど確認できる。周囲で失われたものがここではまだ安定して確認できる。）」という評価を受けました。



② 2024年度実施内容

2) サポーターとの学習会と保全活動

雑木林の再生を協働で行う学内外関係者（サポーター）向けの学習会を全5回実施し、サポーターが雑木林再生の知識・技術を学び、実践する場を開きました。また、「ちょっとボランティア体験」と題して、気軽に参加できる短時間の保全活動も実施しました。年間を通して、現役の学生のほか、教職員、OBOGなど学内外のICU関係者、計68人が参加しました。

2024/6/24 「ICU三鷹キャンパスの森」について知ろう



2024/9/21 森づくりをはじめよう



2024/10/5 森を育む方法を考えよう



2025/1/11 森のいろいろを活用しよう



2025/2/22 森の素晴らしさを知らせよう



2024/10/2 ちょっとボランティア体験



② 2024年度実施内容

3) 普及啓発

ICUに人が集まるイベントに合わせて、プロジェクトの普及啓発も実施しました。2024年度は、専門のパークレンジャーが、オープンキャンパスとICU祭に合わせて自然ガイドを実施しました。ガイドの中では、雑木林再生プロジェクトの対象地だけでなく、「ICU三鷹キャンパスの森」全体を歩き、キャンパスの自然環境の魅力とポテンシャルを伝えるものとなりました。オープンキャンパスのガイドでは「入学したら是非このプロジェクトに関わりたいです!」、ICU祭のガイドでは「ICUのキャンパスでこのようなプロジェクトが始まっていたとは知りませんでした。これからが楽しみです!」という声が寄せられています。

2024/7/20 オープンキャンパスでの自然ガイドのようす



2024/10/13 ICU祭での自然ガイドのようす

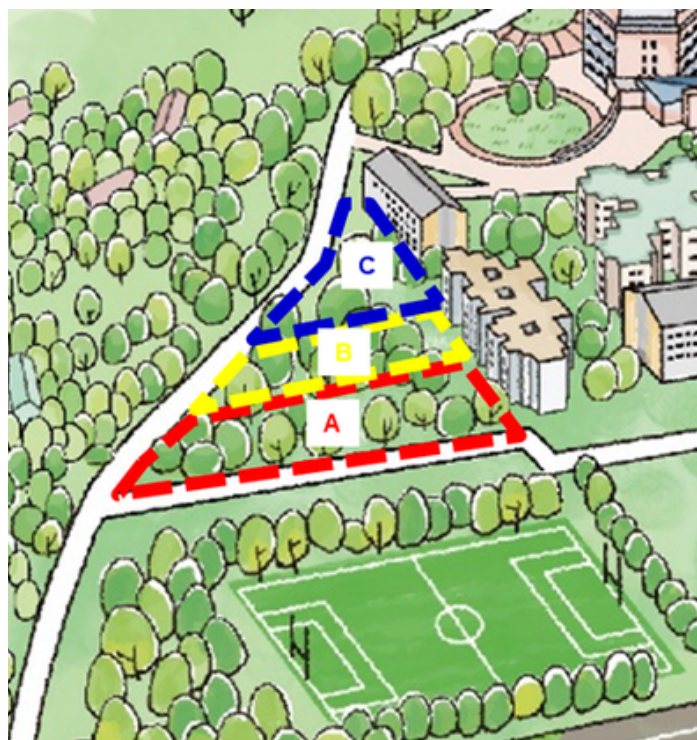


② 2024年度実施内容

4) 更新伐採

雑木林の若返りを図るために行う伐採を「更新伐採」と言います。伐採後は、切り株から若い芽が吹いたり、種から別の新しい木が芽吹いたりすることで、雑木林が再生します。この「更新伐採」を、2025年1月にプロジェクト対象地の以下Aエリアで実施しました。

伐採後は林床内の光環境が抜本的に変化するため、つる植物の繁茂などが起こり、かえって生物多様性が低下しかねません。それを防ぐため、「更新伐採」はきめ細やかな保全管理を行える範囲で行う必要があります。当プロジェクトでは、以下の対象地を面積でA/B/Cに3等分し、東側のAから3年に1回を目途に実施していくこととしています。



③ 2025年度实施内容

③ 2025年度実施内容概要

年間を通じて、「ICU三鷹キャンパスの森」の貴重な自然環境の把握・保全作業・普及啓発や、雑木林再生の担い手であるサポーターの育成を継続しました。後述の通り、更新伐採の成果を把握し、プロジェクトの学内外における認知度の向上も達成しています。

2024年度報告 & 2025年度計画をまとめた資料を新規作成

[illegible]

③ 2025年度実施内容

1) 動植物調査

前年度と同様、動植物調査を、春夏秋冬1回ずつ実施。結果、植物は86科278種、動物は118科267種を確認しました。その中で東京都の絶滅危惧種を含む希少種も46種確認できています。

特筆すべきは、2025年1月に実施した「更新伐採」の成果です。光環境が改善し、前年度の調査では確認できなかったフデリンドウやアマナ、キツネノカミソリの群生が現れました。さらに、明るい雑木林に特徴的な植物が生育面積を拡大しています。樹林と草地が隣接する環境が形成されたため、あらたに生息可能になったヒゲブトハナムグリ、シマヘビ、カシラダカなども確認されました。また、視界が開けたことにより、猛禽類の確認頻度が上がりました。狩場として使っていると考えられます。

一方で、日照量の急激な変化により、外来種やアズマネザサなど排他独占的に繁茂する種が拡大しており、期待する雑木林環境の再生には、今後数年間、これらの種に対するきめ細かな管理が重要と考えられます。



③ 2025年度実施内容

2) サポーターとの学習会と保全活動

雑木林の再生を協働で行う学内外関係者（サポーター）向けの学習会を全5回実施し、サポーターが雑木林再生の知識・技術を学び、実践する場を開きました。また、「ちょこっと森のお手入れ体験会」と題して、気軽に参加できる短時間の保全活動も全2回実施しました。年間を通して、現役の学生のほか、教職員、OBOGなど学内外のICU関係者、計164人が参加しました。

2025/7/21 雑木林の生きものを探そう！



2025/6/7 雑木林をつる植物から守ろう！



2025/9/27 雑木林の希少種を守ろう！



2025/12/6 雑木林を草刈りで守ろう！



2026/1/31 雑木林の資源活用でサステナブルやきいも！



2025/10/28 & 2026/2/10 ちょこっと森のお手入れ体験会



③ 2025年度実施内容

3) 普及啓発

ICUに人が集まるイベントに合わせ、プロジェクトの普及啓発も継続。2025年度も、専門のパークレンジャーが、オープンキャンパスに合わせて自然ガイドを全3回実施、計117人が参加。参加者から「(地方から進学希望で来たが) 東京にもこんなに自然があるとは知らず、驚いた」という声が寄せられました。

また、ICUに隣接する都立野川公園の指定管理者等が主催する「はけの自然とくらしのフォーラム」にて、22団体39人、産官学民さまざまな参加主体に当プロジェクトを現地を見ながら案内。キャンパスの周辺地域におけるプロジェクトの認知度向上も達成しました。

2025/8/15 オープンキャンパスでの自然ガイドのようす



2025/9/29 「はけの自然とくらしのフォーラム」 集合写真



④ おわりに

④ おわりに

雑木林再生プロジェクトのこれまでとこれから

2024年4月に開始した「雑木林再生プロジェクト」において、これまでの2年、動植物調査や学習会、保全活動や普及啓発など、さまざまな取組を進めてきました。その中で、動植物の復活やプロジェクトの認知度の向上など、さまざまな成果も出てきています。

2026年度以降も、プロジェクト対象地の自然環境の再生と活用に関わるさまざまな取組を進める予定です。そこには学内外の関係者であるサポーターの存在が欠かせません。ぜひ、積極的にこれらの取組に参加し、意見し、「ICU三鷹キャンパスの森」を素晴らしい場所につくりあげていきましょう。



【作成】 特定非営利活動法人 NPO birth



2026年4月